

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第19回

長崎県壱岐市消防団

今回は東京から飛行機と高速船を乗り継ぎ、長崎県壱岐市をお訪ねしました。

壱岐は魏志倭人伝にも登場するほど古い歴史を持ち、麦焼酎発祥の地でもあるそうです。

壱岐市消防団は、全国消防操法大会で優勝されるなど、操法大会で毎年のように優秀な成績をあげられていることを伺いました。そんな壱岐

市消防団の活躍や防災対策などについてお尋ねしたいと思います。

それでは、壱岐市消防団の割石賢明団長、西口千治副団長、岩永章副団長、堤康光副団長、中原正博副団長、安川昭彦副団長、壱岐市消防本部の安永雅博消防長、消防団担当の皆さんからお話を伺いましょう。



前列左から、安永消防長、ダニエル・カール、割石団長、西口副団長
後列左から、中原副団長、岩永副団長、安川副団長、堤副団長
(壱岐市消防団本部で撮影)

壱岐市の概要について

ダニエル まずは壱岐市の概要を教えてください。

消防団担当 壱岐島は九州本土の北西の海上にあり、玄界灘に浮かぶ、東西15キロ、南北に17キロの面積138.57平方キロメートルの島です。平成16年3月1日に4町が合併して壱岐市が誕生しました。壱岐市内には、有人島が4つ、無人島が17つあり、市の人口は、28年9月末現在で2万7,643名となっています。

ダニエル なるほど。そうすると、消防団も4つに分けられていたのが1つになったのですね。

西口副団長 はい。消防団は平成17年に合併しました。

ダニエル 交通便は高速船・フェリーや飛行機などがあって、便利ですね。私たちは福岡の博多から来たのですが、壱岐市は長崎県なんですよ。

西口副団長 そうです。生活圏は福岡のほうが近いですね。交通アクセスについては博多港からは、高速船では1時間、大型フェリーでは2時間20分かけて壱岐島にきています。それと壱岐空港がありまして、壱岐空港から長崎空港に1日2便運行しております。

消防団担当 壱岐はわりと山が少なくてなだらかな島となっています。最高の山が213メートルという、非常に低い土地で、耕地面積が全体の約35%を占めています。弥生時代の魏志倭人伝には一支国として登場しており、原の辻遺跡という環濠集落跡が遺されています。県内第2位の平野である深江田原^{ふかえたばる}をはじめ、島内全域には田畑が点在しています。また農村では背部が背戸の山と呼ばれる防風林に囲まれて、1戸に4から5棟の本家、隠居、物置、畜舎等を有する農家が島内一円に点在する、日本でも珍しい

山村形態をなしています。

海岸線は入江に富み、天然の良港にも恵まれ、古くから商業、漁業、農業を中心とした自給自足の島として代々受け継がれてきていて、現在は、郷ノ浦港、勝本港、芦辺港、印通寺港を中心とした集落形態に変わりつつあります。

ダニエル 漁業も農業も商業も盛んなのですね。観光業はどうですか。

消防団担当 九州はもとより関東、関西から島巡りや、先ほどの話のように一支国の博物館、原の辻遺跡などの史跡見学、釣りや海水浴、キャンプ、中学・高校生の修学旅行など、合わせて年間約55万人が来島されています。



取材の様子

壱岐市消防団の概要

ダニエル では壱岐市の消防団についていろいろ教えてください。

消防団担当 壱岐市の消防団は、平成17年5月1日より壱岐市消防団として発足しています。団長が1名、副団長が14名います。条例定数は1,020名で、平成28年10月31日現在の壱岐市消防団の実員数が970名となっています。

ダニエル 人口約2万7,000人の中で1,000人近くが消防団員のメンバーということですね。約27人に1人が消防団員という数字になりますが、これはすごい数字ですね。

西口副団長 総人口の割合としては高いですね。

ダニエル こちらの消防団は人気があるのですね。ほかの消防団でいろいろ話を聞くと、なかなか人数が足りないとよく聞くのですが、実員数が条例定数の95%ぐらいまで達しているのですから、驚きですね。

消防団担当 ここ3年は増加傾向にありまして、3年連続で団員数は増加しています。

ダニエル 女性の消防団員はいらっしゃるのですか。

安川副団長 女性の団員は、38名います。

割石団長 彦根市は4島が有人の島で、その内の3つに33名の女性団員がおり、啓発活動などをやっています。その3つの島は漁師が比較的多いので、お父さん方が沖に漁に出て、島にいないときの見守り隊という形で発足した婦人防火クラブが消防団員になりました。

ダニエル なるほど。漁師さんたちが遠方まで行って、その代わりに見守り隊とか、社会的な貢献をしたいということから始まったのですね。あと若い方はどうですか。代々に跡を継ぐということもよくあるのですか。お父さんも消防団員だったので、自分もとか。

割石団長 この島はだいたい島民の若い人は消防団に入るようになっています。

ダニエル そのような習慣があるのですね。

安川副団長 お父さん、お母さんが消防団でがんばっている姿を見て、やはり自然に「自分も」という気持ちが生まれてくるのでしょうか。

ダニエル やはり親を見て、それでやり始める方が多いのですね。

消防操法大会での活躍について

ダニエル ここ（消防団本部）に入ったときに、入口で（優勝）旗を2つ見たのですけれども、

第23回と第24回の全国消防操法大会で優勝されたのですか。



全国消防操法大会の優勝旗

岩永副団長 そうですね。平成24年度（第23回）の小型ポンプの部と平成26年度（第24回）のポンプ車の部で優勝しました。

ダニエル すごい。2回連続ですか。やはり練習はかなりやっていますか。

岩永副団長 やっていますね。

ダニエル このメンバーの中で参加された方もいらっしゃいますか。

安永消防長 ほとんど経験者だと思います。

ダニエル いい成績がでてるのは、みんなが経験しているからですね。素晴らしい。全国的にもこんなに優勝しているところは、あんまりないのではないですか。

岩永副団長 そうですね。2回連続優勝しているというのはなかなかないと思います。

ダニエル 今年（平成28年度）の大会はどうでしたか。

中原副団長 今年は残念ながら、（長崎県で）準優勝でした。

ダニエル 準優勝でもすごいですよね。皆さんは大会に向けて平均で年に何回ぐらい練習するのですか。

中原副団長 大会が2年に1回ですから、その大会の年はかなり早くから練習をしています。

ダニエル 1年ぐらい前からですか。

中原副団長 そうですね。

ダニエル どのぐらいの頻度ですか。

西口副団長 もう大会が近くなったらほとんど毎日ですね。

ダニエル 本気になるのは、大体1カ月ぐらい前ぐらいですかね。

西口副団長 いやいや、もっと前ですね。

中原副団長 何ヶ月も前からです。

ダニエル 何ヶ月も前から毎日、皆さんの息が合うように一生懸命に合わせて練習するのですね。いや、これはすごい。壱岐市消防団は日本の消防団の代表の一つですね。



全国消防操法大会（平成24年度）での様子

災害での活動状況と防災対策

ダニエル 災害時は消防団の活動が非常に大切ですが、こちら壱岐ならではの、特に気を付けなければならない災害とは何なのでしょう。

割石団長 台風ですね。台風が一番大きいです。

ダニエル 台風は年に何回ぐらい来るのですか。

割石団長 今年は少なかったです。2回ぐらいですかね。

ダニエル 台風の対策としてはどのような準備をするのですか。

堤副団長 基本的な対策は、家から出ないことです。台風の際は家から出ないほうがいいので、台風中に海を見に行ったり、山を見に行ったりしないよう呼びかけています。

ダニエル 自分の身は自分で守るのがポイントですよね。台風以外はどのようなものが心配ですか。

堤副団長 大雨でしょうね。

ダニエル やはり集中豪雨のような。

堤副団長 そうですね。やはり5月、6月ぐらいの梅雨時は気をつかいます。

ダニエル 地震はこの辺はどうですか。

中原副団長 ほとんどないですね。

ダニエル このあいだ、鳥取でちょっと大きなのがありましたし、熊本でもありましたよね。

割石団長 熊本地震のときは、壱岐は震度1ぐらいだったかな。

安永消防長 （最近で大きいのであれば）平成17年の福岡県を震源とした西方沖地震のときは、震度5強でした。

ダニエル 被害はどうでしたか。

安永消防長 建物の大きな被害はなかったのですが、揺れが原因で火災が1件ほどありました。また、堤防や護岸が若干ずれたりもしました。

ダニエル 火災ですか。皆さんは消防操法の優勝までなさっていますので、火事が出たらもう対応はばっちりですね。

安川副団長 それはばっちりですよ。今は操法大会で優勝するだけでなく、火事を出さない島で1番を狙おうということに、団長が力をいれています。

ダニエル なるほど。いわゆる火の用心の意識を高めるということですね。その辺についてもちょっとお伺いしたいのですけれども、どんな活動をなさっているのですか。

安川副団長 地域ごとに団員や団幹部がいますので、やはり自分の家や自分の地域は自分で守るという指導をしています。「火の始末はちゃんとしなさいよ」、「こういうところで燃やしたら駄目ですよ」と、全員にことごとく言っていけば、素人の人でも火に関して心配してくれるというか、取り扱いには気をつけてくれると思いますね。

ダニエル よく小学校や中学校に皆さんが回っていろいろな講座をしたり、あるいは小さな子供でしたら紙芝居など、そういう活動を全国各地でやっているのを聞きますが、そのような感じの活動もこちらでやっているのですか。

安川副団長 そうですね。警察や消防署関係に、学校をあげて見学にきてもらったりします。しょっちゅう消防署の方が熱心に子供たちに教えています。

ダニエル なるほど。教育的なところですよ。子供たちに、こういう火遊びをしたら危ないぞとか、そういうことを小さいころから教えて、その子供たちが成長したら消防団員になってくれるのが一番いいかもしれないですね。その他に火事など災害が出ないための対策はありますか。



子供たちに講義をする中原副団長

割石団長 消防本部から防災告知放送で放送をしたり、消防団の各地区の団員が地域を守るために積載車で巡回をしています。11月ごろから火災予防週間になりますし、年度末には年末警戒ということで、夜7時から9時ぐらいまで「火の用心」を言って地域を回っています。

災害が起こったときは、各地域の分団の車両が地域の全部を警戒して、その報告を消防本部に上げて、消防本部が分からないところを消防団がフォローするというような格好で一体となってやっています。

団員と家族の皆さん、壱岐の人たちが防災に対して意識が高まってきていますので、火事を起こさない、事故を起こさない、そういった地域防災にも力を入れています。

今年の4月に、壱岐市にも危機管理課ができて、災害を未然に防ぐため、壱岐市内に防災告知放送をしています。家庭にはスピーカーがあり、普通の放送のときは黄色いランプがつかみますが、災害時の消防署からの放送は赤いランプで大きいボリュームで放送があります。そのように壱岐島は今防災のために万全な体制を取っているところです。

また、少しのたき火でも、草などを燃やすときはバケツに水を汲むなど、消火の準備をしてから行うよう消防署からの放送で言います。初歩的なことですがけれども、それが基本ですから。壱岐島にはわれわれ消防団もいますけれども、消防署の皆さん、壱岐市役所の職員、島民全部がこぞって防災をがんばってやります。火事を起こせば大事おおごとですからね。その点はわれわれの地域において、皆さんが消防団員の活動ということを知ってくれているので、団員の士気は上がってきています。

石田という地区では毎月1日に、防火パレー

ドをして、自分の地域内を2～3時間ぐらい回って、防火の啓発をして回っています。また、壱岐病院で消防署と消防団との合同防災訓練の計画もしています。大体、防災訓練を年に1回は計画をして、石田・勝本・芦辺・郷ノ浦の4地区がありますから、その中で1年ごとに交代をして訓練をするようにしています。

ダニエル なるほど。年中行事のような形で訓練を行うのですね。火の用心の心を広めるには一番いい訓練かもしれないですね。

最後に

ダニエル 最後に壱岐市の消防団についてのPRやご自慢のところなど聞かせていただければと思います。

割石団長 われわれ消防団員としては地域を守るという消防団の気持ちがあるところが自慢になると思います。先ほど言いましたように、壱岐市消防団は操法大会においても県下で優勝して、全国大会に行って優勝をするという素晴らしい成績を残しており、長崎県下の中では消防操法大会に関して壱岐市が手本になってがんばっています。



放水訓練の様子

団員の皆さんにも、地域を守るためにわれわれがいるということを誇りにやろうではないか

という気持ちを持っていただいています。そういう精神を若い人たちに教えることによって、団員の加入促進ができると思います。半強制的に加えるわけではなくて、地域は自分たち若い人間で守っていこうではないかというような方向にもっていけば、自ずと分かってくれると思います。消防団としての誇りをみんな団員が持っているということを私たちは認識してやっています。われわれ消防団も、壱岐市消防本部も、壱岐市役所の職員の皆さんも一緒です。地域を災害から守るという気持ちを持っているのがわれわれ壱岐市の良いところだと私は思っています。

ダニエル いや、よく分かります。伝統にもなっていますよね。

割石団長 そうですね。

ダニエル 伝統というか壱岐ならではの昔からの社会貢献ですね。町をよりいい町、より住みよい町、より安全な町にするというのがやはり皆さんの統一した心だと思います。

割石団長 消防団ができてもう120年ぐらいになりますけれども、消防団に対する消防団員の心意気というのは昔と全然変わりませんよね。しかし、今の生活水準は変わってきています。ここも、私が子供のときよりも変わりました。今は毎日毎日働いてなんぼの生活なのですよ。昔はボランティアをしても、みんなと助け合っても生活ができました。今はそれができません。ですから、やはり消防団の在り方というものも、処遇を改善していかないと消防団員の確保というのは到底難しい時代にきていると思います。もう時代も変わっていきますから、やはり今の時代に合った消防団の在り方というものを作っていかないといけないのではないかと僕は思っています。

ダニエル なるほど。

割石団長 昔からのやり方でいっても（団員は）減るばかりだと思います。消防団に入れば、何か自分の将来や、自分のためになる、あるいは家族のためになる。そう思って消防団に入団してくれれば、それがまた地域のためになるのです。



新入消防団員研修の様子

ダニエル そうですよ。日本は高齢化社会、少子化社会というダブルパンチを受けているような状況だと思います。団員の確保は難しくなっていくでしょうね。

割石団長 壱岐は人口が減っています。でも、消防団員は（地域の）隅々までいます。人口が減っても隅々までいて、地域や生活を把握しています。そのためには消防団員は減らすわけ

にはいかないのです。人口が減った分、島も小さくなればいいのですけれども、人口が減っても、在部には団員が要ります。

ダニエル やらねばならないことは減らないわけですね。

割石団長 はい。むしろ消防団の仕事は多くなるばかりです。

ダニエル 難しい問題ですよ。

対談を終えて

私はテレビ番組のロケなどで、日本全国を訪れていましたが、壱岐には来たことがなかったので、今回訪れることができて本当に嬉しかったですね。

離島という環境の中で団員を確保するために、団員の処遇改善などについても真剣に考えておられる団長や副団長の皆さんの熱意には圧倒されました。

また、壱岐市消防団の皆さんは何ヶ月前から消防操法大会に向けて練習すると聞いて、消防団員の皆さんの活動にかける情熱が伝わってきました。ぜひ今後も優勝目指してがんばってほしいですね。

壱岐市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。（ダニエル・カール）